Press Release

舞鶴市
MAIZURU CITY

報道関係者各位

令和６年４月11日

舞鶴引揚記念館　令和６年度　第１回企画展
絵画「おもかげを探したその先に」

舞鶴引揚記念館では、令和６年度最初の企画展　絵画「おもかげを探したその先に」を下記の日程で開催しますのでお知らせいたします。本企画展では、当館が所蔵する約1300点の中から、抑留中に兄を亡くした山内保良氏が墓参のために訪問した際に、シベリア各地で見つけた日本人抑留者が建設に関わった建造物等を描いた絵画を展示いたします。

1．展示期間

令和６年４月20日（土）～　令和６年７月21日（日）

※展示期間中の休館日：毎週水曜日

2．場所

舞鶴引揚記念館　企画絵画展示室　（企画展は無料。別途入館料が必要です）

3．展示概要

シベリア各地への本格的な墓参などは平成３年（1991）に開始されました。肉親の最後の地やそのおもかげを探して多くの遺族がシベリア各地を訪問しました。その中に23歳の兄を抑留中に亡くした宮崎県出身の山内保良氏がいました。兄のおもかげを探すシベリア墓参の旅の中で抑留者が建設に関わった給水塔やアパートの存在を知り、町のインフラ整備にも抑留者が大きく関り貢献をした事実も知ってほしいと願うようになり絵筆をとって記録として残した絵画を展示いたします

4．展示資料

・油彩画　14点

5．作者について

山内保良氏　昭和２年生まれ　宮崎県宮崎市出身　二紀展に４回入選

○平成３年（1991）、５年（1993）、６年（1994）に墓参のためシベリアへ。
○平成10年（1998）７月に絵画15点を引揚記念館へ寄贈

SDGs 未来都市

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

○平成13年（2001）11月に墓参記録画集「北極星の下シベリアに残されたもの」発行

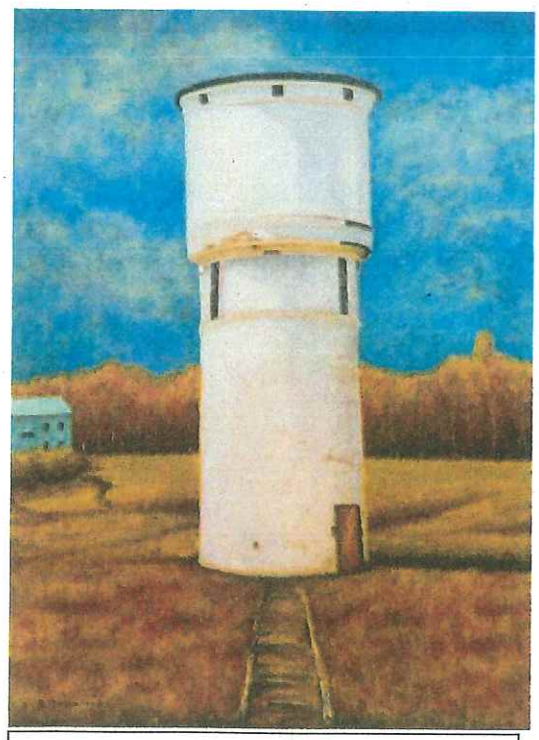
＜画集より　「あとがき」「作者のことば」抜粋＞　※原文のまま

「私がシベリアに行きたいという願望を持ったのは昭和21年冬に兄の戦病死の広報を見た時である。その時私は19歳であった。（中略）何年後、何10年後でもよいから必ず兄の墓参をしたいと願い続けて40数年。ゴルバチョフ時代になってその念願がやっと叶えられた。私は64歳になっていた」

「墓参の旅先で、さまざまな想いと感動を受けました。同行した元抑留者の真に迫る話を聞くたびに、その過酷な強制労働の実態にただただ呆然とせざるを得ないことが度々ありました」

「墓参の旅で私が想像もしていなかった事実に出会いました。それは日本人抑留者が強制労働で作った建築物です。公共施設、ホテル、映画館、民家など数多くの建物が現存し、その大部分のものが今でも使用されていることです。これだけの建物を完成するのにどれだけの日本人が犠牲になったことでしょう。（中略）これらは、日本民族がシベリアに残した歴史の一端として、是非とも描き残すべきだと決心しました。（中略）この事実を真摯にとらえ後世に伝える義務があると思いました。」

６主な展示資料　※サイズの単位はセンチメートル



給水塔
油彩　サイズ101.5×134.7
制作年：不詳

ゴーリンの真冬は零下40°～50°となるので塔の中の水が凍結しないように焚火で暖かい空気を常時2重3重に塔内に流し凍結を防ぐ装置となっている。この塔の高さは約20m位あり円筒形になっている。円筒物を造るには高度の技術が必要となるが容積率が最大となり、強度も最高なる。日本人の合理的な発想と高度な技術が結集した建物であり、その形態は単純化されていて、均整のとれた端正な建物となっている。
ゴーリン304収容所にいた瀬谷氏の証言による

（画集より）

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

この作品のモデルは遠田さんである。夫は昭和16年8月に出征、終戦後にシベリアに抑留され昭和21年4月にヤブノバヤで病死された。死没されてから49年目に墓参の望みが実現したのである。老婦人は墓標の周りの夏草を、ただただ無言で一握り一握り取っている。老婦人の胸中を察するのはあまりにも悲しく複雑で余人の立ち入る隙などあろう筈はない。

（画集より）

祈り　五十年目の墓参
油彩　サイズ 134.8×134.8
制作年：不詳

民家
油彩　サイズ 101.5×134.7
制作年：不詳

コムソモリスクには約15,000人の日本人が抑留され日本人が作った建物が多く残っている。この二世帯住宅のアパートも日本人が建てたものである。私の兄はコムソモリスクの収容所で病死した。この絵の小品をコムソモリスク市の美術館に寄贈したところ常設展示室に展示されているそうだ。当時の美術館長からこの建物を今後日露の友好の標として市当局と相談して永久保存したい旨の誠意ある返礼があった

（画集より）

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平 1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

チュナ市は、バイカル湖の北西バム鉄道のタイセットの東方に位置している。この建物は日本人抑留者が建てたもので現在でも住民が居住している。

（画集より）

アパート
油彩　サイズ 101.5×134.7
制作年：不詳

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平 1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp